

## 令和2年度 第1回酒田市図書館協議会の概要報告

日時：令和2年7月31日（金） 午後1時30分～午後3時10分

場所：総合文化センター 410・411号室

出席：高橋利春委員、庄司憲昭委員、久米井浩委員、荘司秀明委員、榊原有友子委員、岩崎宏平委員、後藤吉史委員、大澤志美子委員、高山寿美子委員、池田京子委員、佐藤弥委員、尾沼馨委員、本間教育次長、岩浪図書館長、岩堀文庫長、小田副館長、大井ミライニ開設準備室次長、清野主査、眞嶋主査、鈴木係長、富岡主任

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 教育次長あいさつ
4. 職員紹介
5. 報告・協議事項

- (1) 令和2年度事業実施計画等について 資料1  
(館長から説明)

庄司委員：光丘文庫はデジタルアーカイブ化が進んでいるということだが、昨年の会議で除籍する本の選定作業についての話があった。内容が地元根差していて特殊なこともあり、こういった形で処分しようかという話だったと思うが、そちらの進捗状況と、もし進んでいないのであれば、今コロナ禍で在宅でパソコンやネット環境に向かい合う時間が長くなっているのに、手間がかかると思うが、ただ破棄するだけではなく財源につながるのなら、酒田市のHPやあるいは官公庁オークションのような形、そういう選択肢も考えていただければと思う。

文庫長：昨年度の図書館協議会でそういった話が出てから、光丘文庫所蔵の一般的な図書の中で不要と思われるものを選定して一覧にして、保管している状況である。その対応に関しては、今後図書館と詰めていきたい。頂戴のご意見については、今後検討させていただきたい。

荘司委員：図書館報「光丘」、毎回楽しみにしている。酒田市民として興味関心くすぐられる部分も、学ぶ部分もあり、そういった意味でも非常に大事なものだと思う。内容についても、十分に掘り起こしていただきながら、より多くの方々に見てもらえるような手段というか、そういったものも検討いただきながら励んでいただければありがたいと思う。

図書館長：3月から図書館だよりというやわらかい内容のものも発行したが、それを見て館報光丘がなくなるのかと思った方もいたようだ。どちらも続ける訳だが、この館報光丘には根強いファンがいて、50年以上にわたる歴史のある館報であり、このスタイルは大変貴重なものであり、ずっと続けていきたいと考えている。

- (2) 新型コロナウイルス感染症対策について 資料2  
(副館長から説明)

榊原委員：このような中で図書館を再開するということは、スタッフの方々は大変な思いをしていると思う。3密を避け、感染防止対策を十分にとっていると思うが、参考までに同じ図書館で働く者として、返却されてきた本や書架に並んでいる本等の具体的な消毒や、利用者の方が利用された机や椅子の消毒の仕方等について、具体的に教えていただければと思う。

図書館長：本の消毒については、当初返却された本等は次亜塩素酸水を含ませた布等で拭いていたが、国で次亜塩素酸水の消毒効果について、明確になっていないと出されたこともあり、現在その消毒作業はしていない。また、いくら本のカバーを拭いても、利用者は本全体を触っているので、実際本の中身まで消毒することはできず、どこまでやったら良いのかという問題が出てくる。返却本が少ない小規模な図書館では、ウイルスが死滅するまでの時間、本を棚に戻さないところもあるようだが、当館では一日に1,000冊程の本が戻ってくるので、現実問題として置いておく場所がない。そういう意味で消毒作業はやっていない状況である。

池田委員：今の話の関連だが、保育園でも本の貸出について検討している。子どもたちにとって絵本は大事なもので、なくてはならないものなので、園でも貸出はしているが、次亜塩素酸で本を拭いたりできるものとできないものがあり、ウイルスを退治できるものが何かないかといろいろと調べている。保育園ではままごと等の遊具やみんながさわる人形等を、殺菌する殺菌庫があるが、本も消毒できるものがあるとのことだったので、保育園でも購入したいと考えている。お医者さん等でも、現在新聞や雑誌は見られないところから、本の消毒はしなければならないものと職員と話している。

図書館長：今話があったとおり、本の殺菌機というものがあり、一度に殺菌できる冊数が10冊もないものだが、現在そちらの購入を当館でも検討している。それを図書館の中において、利用者に自分が借りる時にそこで殺菌していただくという使い方ができればと考えている。ただ、本を開いて中も殺菌できるようにする必要があるため、おのずと中に入れられる冊数が少なくなってしまう。値段は100万円くらいするようだ。(6冊用で1台税抜き120万円)

尾沼委員：スタッフの体感として、今の対策をしていると感染予防は大丈夫だと思っているのか、感染リスクがあるのではないかと考えているのか、その辺を教えていただければと思う。

副館長：感染予防対策として、スタッフについてはカウンターであれば透明シートで飛沫が直接当たらないような形にしている。そのほか各スタッフが自主的に手袋をつけて本を扱う等、できる範囲で対策している状況。ただ、症状がない方でもウイルスを持っている方がいるとのことから、常に危険な要素があるので、なるべくお客様と会話をする時も、ある程度距離をとり、3密にならないような形で対応している状況である。

高山委員：ブックスタートも今年度この状況でまだ一度も読み聞かせをしていない。スキンシップをしない方法に変えるとか、改めてスタートする方向性について、何か検討されているか。

眞嶋主査：ブックスタートについては、主体は子育て支援課だが、健康課の保健師からの指導があって今の形になっている(読み聞かせなし、希望の絵本をお渡しするのみ)。健診自体も、お医者さんが2人で人数を分けて密にならないように、なるべくお母さんともしゃべらないようにと指導されている。保健師の指導の下、恐らくもうしばらくこのままの状態が続くと思われる。

大澤委員：提案だが、以前はマタニティスクールの時に、お母さんとお父さんのために読み聞かせをする機会があった。赤ちゃんを連れて密なのは危ないと思うが、マタニティスクールの時に実施するのも良い方法じゃないかと思う。

眞嶋主査：主管課に伝える。

### (3) 第3次酒田市子ども読書活動推進計画について

資料4

(眞嶋主査から説明)

荘司委員：関心を高める取り組み、My本棚のレビュー機能の活用に、自分が読んだ本の感想を公開・

閲覧できるとある。子どもからみれば、自分の読書の記録を残すことができ、更に自己有用感というか、みんなに自分の読んだ本を紹介することで得られる満足感につながる。それが読書への興味、動機づけという点でも効果が期待できると思う。あとは匿名、プライバシーの保護が大きな課題になってくるとは思うが、期待できると感じた。

高橋会長：今の意見で、自分の読んだ感想文や展示する場所というものがあるのか。

眞嶋主査：My 本棚とは違うが、ポップ等で紹介・展示するコーナーを設置という部分は、皆さんにお願いしたいと考えている。今現在まだ構想段階だが、各中学校の図書委員、今月は一中の図書委員の選んだおすすめ本とか、今月は東高校の図書委員の選んだおすすめ本と、そういった半分顔が見えるような状態でやるとモチベーションが上がるのではないかと考えている。

荘司委員：図書委員とかの委員会活動は一つの方法であると思うが、どうしても現場では、場合によってはやらされ感を否定できないケースもあると思う。より自発的なのというところでは、そういうものを発したいという気持ちを引き出していく、主体的に自分がゲットしたものを表現・提起していくということが、これからの学びの中でも大事になってくると思うので、そういったところも大事にしていただければありがたい。HP 上で公開する、イラストで表現する、それを紙ベースに直して掲示する、そうすることで、通りかかる人にも興味を持っていただけると、いろいろと伸びしろはあると感じた。

佐藤委員：このアンケートに正直に答えているだろうかと疑ってしまう。中学2年生の令和2年の数字。全国平均の2倍近くになっているが、不読率も少し高くなっている。読む人はいっぱい読んで、読まない人はそこそこ読むのかなと見れば良いのだが、実際のところどうなのか。息子が中2の時、アンケートにちゃんと答えたかと聞くと、そんな訳はない、どう回答をすれば喜ぶのかわかって回答をしている、正直には書いていないと現在30歳の息子が当時言っていた。今の子どもたちは、私の息子よりもさらに知恵がついている。したがって、果たしてこれは本当なのかと感じたので一言言わせていただいた。これには回答はいらない。もう一つ。骨子の分析の部分、読書手帳の活用が向上しているにも関わらず、利用率が中学生では極端に落ちている、これは分析というより、現象をそのまま表しているに過ぎないので、果たしてその理由はどこにあるのかということをもう少し探っていただいて、計画に活かしてもらいたいと思う。

眞嶋主査：資料にはないが、読書手帳に書かない理由として、めんどくさい、書きたくない、わざわざ書かなくてもいい等とあり、そもそも書くこと自体に拒絶反応を示しているということが、特に中学生にはあった。書くのが嫌なら、目先の変った情報端末を使ってみてはどうか、そういったところで代替えのように続けてみたらという形で進めていきたい。

佐藤委員：今の記述の部分は、正直な反応だと思う。本を読むと次から次へと本を読みたくなる。したがって、そんなものに記入する時間をもったいない。シリーズものがあれば次また読みたいと夜を徹して読むというのが、はまった時の読み方だ。でもそんな人は100人のうち半分もない。10人もいればたいしたもの。読書に時間を使うと他のことに時間を使えない。だから他のことに時間を使っている人は、読書に時間を使えない。そこそこのパーセンテージで推移するのが正直なところだと私は思う。

久米井委員：読書手帳については、読書の足跡がわかり、習慣づくりのためのとても効果的な取組みだと感じている。記入については、各校で取組みの柱にしているところと、独自に別の取組みを優先させているところがある。子どもたちもそれぞれで、書くのはちょっとという子もいれば、

残しておきたいという子もいるので、先ほど話のあった対象の限定、記入の仕方の工夫等、そういう形で進めていかれるのが良いと思う。うちの学校の場合、小さい子は年間200冊程、上の学年の子は100冊程という記録。読書手帳については、こういうものがあると紹介はしているが、活用については各担任の先生の判断に任せている。

眞嶋主査：読書手帳の活用状況については、学校の先生方にもアンケートをしており、活用しているという方、配っただけという方、高学年や中学生の担任の先生等では、効果に疑問を感じている方もいらしたので、そのあたりも鑑みて次の方策に活かしていきたいと思う。

榊原委員：前回の協議会で、読書手帳をうまく利用している学校があれば、それを学校間で紹介してはどうかという意見があった。また子どもたちから、その中でおすすめの本の紹介という意見もあったと思うので、ぜひ実施してほしい。

(4) 酒田駅前交流拠点施設ミライニの進捗状況について 資料4  
(大井次長から説明)

庄司委員：当初、オリンピックが終わってから開館するのかと残念に思っていたが、今回はオリンピック前にすでに出来ているということで、オリンピックの時には例えばパブリックビューイング等で、日本人選手がプレイしているところを応援するといった企画や、あとはエジプトあたりにも「おしん」のドラマに感動して「しん」と名付けた人がいるぐらいなので、「おしん」や「おくりびと」を目指して、ひょっとしたら、HP等で宣伝をしたら世界からいらっしゃる人がいるかもしれないと期待をかけながら、今後の発展をお祈り申し上げる。

(5) その他（県指定文化財「保定記・続保定記及び印旛沼日記」の寄託について） 資料6  
(文庫長から説明)

## 6. その他

榊原委員：「詩人・吉野弘の世界」徳島県立文学書道館の特別展のチラシについて。昨年11月に希望ホールで行われた酒田詩の朗読会主催の「宝の日」に、次年度吉野さんの特別展をやりたいと、この文学書道館の方が、特別展の下調べのため参加し、吉野さんのゆかりの地等を訪れた。たまたま知り合いになったが、今回8月9日から特別展ができることになったと大量のチラシが送られてきた。徳島県なので、このコロナ禍で当然行けないが、なぜ遠い徳島県で吉野さんの企画なのか、その理由も聞いた気もするが忘れてしまった。しかし、来た方はかなりの吉野さんのファンで、少なくとも徳島県で酒田市出身の吉野さんの特別展をするということは、徳島でも大変人気のある詩人だということだと思う。裏面にもあるが、吉野さんゆかりの物も展示するとのこと。ミライニにも吉野弘さんの素敵な常設展示ができることを願っての話題提供で配らせていただいた。

副館長：8/1発行の館報光丘、図書館だより第2号も配布した。例年、山形県図書館研究大会に委員の方から参加いただいているが、現在のところ中止とはなっておらず、10月22日(木)に、山形市にある遊学館ホールで開催される予定とのこと。詳細が届いたらご案内させていただく。次回の図書館協議会は来年3月の年度末を予定している。

## 7. 閉会